

震災復興に係る市民懇談会概要

1. 会場別参加者数

開催日時	会場名	参加者数		
		地区住民	その他*	合計
6月23日(木) 18:30~20:30	重茂漁業協同組合	62	12	74
6月24日(金) 18:30~20:30	赤前小学校	95	14	109
6月25日(土) 10:00~12:00	津軽石小学校	113	7	120
6月25日(土) 13:30~15:30	磯鶏小学校	83	7	90
6月25日(土) 16:30~18:30	藤原小学校	77	10	87
6月29日(水) 18:30~20:30	高浜小学校	128	15	143
6月30日(木) 18:30~20:30	田老高齢者会	78	18	96
7月 2日(土) 10:00~12:00	グリーンアミ陸みやこ	255	19	274
7月 2日(土) 13:30~15:30	崎山小学校	51	9	60
7月 2日(土) 16:30~18:30	鍬ヶ崎小学校	216	11	227
7月 3日(日) 10:00~12:00	市民総合体育館	49	16	65
7月 3日(日) 13:30~15:30	宮古小学校	87	10	97
7月 3日(日) 16:30~18:30	愛宕小学校	85	8	93
7月 4日(月) 18:30~20:30	市役所	137	13	150
計		1,516	169	1,685

※その他は市議会議員、マスコミなど

2. 分野毎の主な意見・要望

(1) すまいと暮らしの再建分野

①【生活支援】

- ・生活再建支援金の申請期間は2年間となっているが、大災害であることから短期間での再建は難しい。国や県に対し、期間の延長について要望を出してほしい。
- ・仮設住宅では「孤独死」などが心配される。自治組織を設置するとともに、集会施設や公民館の設置も含め、コミュニティの形成を図る必要がある。
- ・将来のことを考えることも大切だが、今の生活をどうするかを最初に考えなければいけない。日々の生活を守る方策を行ってから、堤防の高さや避難所の議論をしてほしい。
- ・仮設住宅と自宅避難者、或いは、全壊と半壊など、支援内容などに差があることから、是正を図る必要がある。
- ・高台移転を行う場合は、浸水区域後背地に残る地域のコミュニティをどうするのかについても、充分配慮してまちづくりを進めてほしい。

②【仮設住宅】

- ・仮設住宅の網戸、消火設備、二重サッシ等施設改修について、柔軟な対応をしてほしい。

③【住宅再建・土地利用】

- ・漁業者の再建には、養殖施設や作業場の整備などが必要となる。再建資金の関係から離職する数を減らすためにも、住まいについては漁民・漁村住宅なども検討する必要がある。
- ・高台移転用地については、行政が宅地造成を行い、浸水区域との等価交換を行うことを検討してほしい。
- ・住宅の再建用地を考える場合、各種法律の縛りがある。今回は、大災害であり緩和策、或いは特例などを要望し、早急な住宅再建を図ることができる環境を整備する必要がある。
- ・復興計画では3本の柱を掲げているが、「すまいと暮らしの再建」を優先すべきだ。命に関わるし、希望を持ち、将来を考える環境として仮設住宅には限界がある。
- ・閉校する学校の跡地などを利用し、地区住民と一緒に住めるような公営住宅の整備などを考えてほしい。
- ・就労場所の確保として、大規模商業地域の整備と、付近の高台への宅地整備を行い、バスなどによるアクセスを考えて行く必要がある。

④【教育施設】

- ・小学校の校庭に仮設住宅等が設置されたことにより、土の上で遊び、学んだことのない子どもが出てくる。子どもたちが土の上で遊び、運動できる場を整備してほしい。

⑤【埋蔵文化財】

- ・高台に移転を考えているが、周辺高台は埋蔵文化財の包蔵地ばかりである。埋蔵文化財の調査には相当の期間が必要と思われるが、市民生活の安定のためには、調査の簡略化を図る必要がある。

(2) 産業・経済復興関連

①【産業・経済復興】

- ・漁には時期があり、今実施しなければ次年度以降に影響する。漁業活動の再開に向け、漁港の災害復旧や各施設整備について、早急に実施する必要がある。
- ・宮古市は漁業を振興しなければ復興はありえない。漁業経営の効率化、採算性の向上などを考えた事業展開が望まれる。
- ・市内の遊休農地、整備されていない山林などを雇用対策として活用してはどうか。
- ・商店街の住宅兼店舗に住んでいたが、借金を返済することで手一杯だ。市で支援策を検討する必要がある。
- ・商店街への支援情報体制の強化が必要であり、補助採択に向け行政がバックアップをする必要がある。

- ・震災に伴って被災した工場や、仕事を失った方もあろうかと思う。これらに対する対策も考えていく必要がある。
- ・観光の復興に向け、「見る観光」から「体験できる観光」へシフトし、マリンスポーツなどが体験できる施設や新たな観光資源の整備を図る必要がある。

(3) 安全な地域づくり関連

①【道路整備】

- ・有事に孤立することのないよう、地域の実情に即した道路整備が必要だ。まずは、命を守る道路は早急に整備する必要がある。

②【防災・消防】

- ・現在地に住むことを前提として、防潮堤の嵩上げを要望してほしい。
- ・「どのように整備すればよいか。」と聞かれれば、20mでも良いから防潮堤をつくっていただき、元の場所に住みたい。あらゆる手段を使い再生していただきたい。
- ・河川を活用した「津波を逃す方策」も検討する必要がある。
- ・消防団員の安全確保のためには、水門の遠隔開閉方法について検討する必要がある。
- ・津波を防潮堤などで百パーセント防ぐのは無理であり、いかにして逃げるかが大事。有事に子ども、高齢者或いは障がいを持った方、誰でも迅速に避難できる体制を整備してほしい。
- ・尊い命を守るためには、防災無線は危機感を抱かせる放送とする必要がある。
- ・防災無線が使用不能となった場合、市民への周知手段を整備する必要がある。
- ・防災マップの整備には、地域の実情を理解している地域住民の意見を反映させ、効果的なものにする必要がある。

③【再生可能エネルギー】

- ・今回の津波災害では、発災当初燃料確保に苦慮した。復興計画の策定に当たっては、宮古の復興の柱として再生可能エネルギーを取り込むことも検討する必要がある。

(4) その他

①【計画策定】

- ・地域の将来像をイメージする上では、次の世代を担う若い世代（小・中学生も含め）の発想も重要になる。若い世代の考えも積極的に聞き、良いアイデアは採用する必要がある。
- ・大学の先生も必要だが、地元に住んでいるもの、昭和の津波を経験した市民の意見を聞きながら計画を策定する必要がある。
- ・住民との意見交換は十分な時間をとり、また出来る限り多くの地区で実施する必要がある。
- ・地域を離れた被災者の方が相当いると想定される。市民税を緩和するなど他市町村へ移動した方々を呼び戻すための方策を実施する必要がある。

3. 具体的な意見・要望

(1) 重茂

- ・ 県道のルート変更について、検討のうえ早急に整備してほしい。
- ・ 集落ごとに意見を聴く機会を設けてほしい。

(2) 赤前

- ・ 地区内の石碑のうち、道路復旧のために移動したもの（一基）を復旧してほしい。
- ・ 津軽石川の流れに沿って、津波を逃す方策にすべきだ。
- ・ 稲荷橋付近がいつも渋滞しているので、改善すべきだ。

(3) 津軽石

- ・ 防災無線のスピーカーの音がぶつかり合い聞きづらいので改修してほしい。

(4) 磯鶏

- ・ 港湾の木材が地区内に流入した。他の物も含め保管の仕方について検討してほしい。
- ・ 市の公民館が被災したことから、地区の公民館を使用している。その電気料金は町内会予算で賄っているが、市としてなにか支援できないか。
- ・ 八木沢団地の向い側は、文化財調査が済んでいることから、宅地として使用できないか。
- ・ 街灯が少なく危険だ。増設することはできないか。

(5) 藤原

- ・ 中屋造船の所の防潮堤を整備してほしい。
- ・ 藤原地区民が迅速に避難できるよう、国道、線路などを容易に横断することのできる施設を整備してほしい。
- ・ 避難場所である藤原小学校は安全とは言えない。安全な避難場所を整備してほしい。
- ・ 藤原地区には公民館が無いので整備について検討してほしい。

(6) 高浜

- ・ 今回の津波は、堤防が無いところから水がはいり、家屋が破壊された。是非堤防を完成させてほしい。
- ・ 地区センターが被災したことから、仮のセンターの整備をお願いしたい。
- ・ 金浜地区の後ろに大きな山が三つある。盛土に使ってはどうか。
- ・ 金浜はJRの線路により交通が遮断されていることから対策を講じてほしい。
- ・ 温泉施設付近の防潮堤を早急に修理してほしい。
- ・ 国道45号が通行止めになった際の、代替道路を整備してほしい。

(7) 田老（高齢者コミセン・グリーンピア）

- ・ 摂待地区でも懇談会を開いてほしい。
- ・ 夏休み等に被災者の家族がグリーンピア三陸みやこに宿泊できるようにしてほしい。
- ・ 田老第一小学校の裏山を開発してほしい。

(8) 崎山

- ・崎山の海岸沿いは、道路が1本しかないので、もう1本整備してほしい

(9) 鍬ヶ崎

- ・築地から浄土ヶ浜への道路を高架にし、住まいは高い高層の3、4階が良いのではないかな。
- ・元の場所に住めるよう、高さ20mでも良いので防潮堤を造り、嵩上げもしてほしい。

(10) 総合体育館

- ・三陸鉄道の復興にかかる活動について、市でも支援してほしい。
- ・中央通りのアメリカハナミズキの手入れを市に手伝ってほしい。
- ・中里団地の仮設住宅までのバス運行について検討してほしい。

(11) 宮古小学校

- ・中心部の商店街は、店舗兼住宅が大きな被害を受けた。今後、浸水の心配が無いよう堤防を高くするなどし、経済活動を守れるように、末広町商店街の再興が必要だ。

(12) 愛宕

- ・愛宕小学校の跡地活用について、公営住宅の建設などを検討してほしい。

(13) 市役所

- ・県計画案に、コンパクトシティについての記載があるが、宮古の場合は、宮古駅と市役所を中心としたまちづくりが必要。高層の建物を造り、上層階が住宅、下の階に衣食住に、医、職を入れた形で、まちの生活がそこで運営されるイメージで整備してはどうか。
- ・コンパクトシティ構想は如何なものか。人を駅中心に集めて面白い人生を送れるのか。生活には、地域のコミュニティも大事だし、押し込められた生活が良いとは思えない。

4. その他の意見・要望

- ・市の対応が、職員によって異なる。各種基準等が担当者間で統一できていなかったのではないかな。
- ・個人情報管理をしっかりともらいたい。
- ・市職員が上から目線だった。
- ・仮設住宅駐車場の使用について、早い者勝ちということになったが、不公平ではないかな。
- ・自治会のほうで何かやりたいと思って市に話を聞くと、市役所の方針がわからない。ボランティアなどに聞いてもわからない。誰が責任者で、誰が方針を出してくれるのか。市民にとってわかりやすく、要請に答えてくれる組織作りを検討してほしい。
- ・県から指示が降りてくるのを待つのではなく、宮古から県にもって行って、それを実現できるように努力していただきたい。
- ・町内会の運営として、仮設住宅にどういう人が来るかを市に聞いても教えてくれない。個人情報の法律にはこだわらず柔軟にやってほしい。市に積極性がない。

- ・ 行政に問い合わせをしても、電話に出た担当課から、適切な返事をいただけないことが多い。市庁舎の中で「報連相」がされていない。縦割りの弊害である。